

今後の酒田市青少年育成推進員の組織について

4月の総会の席上で教育委員会から説明があったように、来年度より青少年育成推進員の活動予算が削減されると予定です（正式に判明するのは12月頃か）。財政支出削減に伴い、推進員の減員をしなければならなくなると思われます。

来年度はちょうど改選期ということもあり、推進員が何人削減されるか不透明な中で選出作業にあたらなければなりません。何人になるかもわか



らない中ですので、選出の仕方がとても難しいとご理解いただけたと思います。これまでのようにコミセン単位というわけにはいきません。中学校区毎というのでは今号でご紹介した地域活動が困難になることが予想されます。まして、全員が管轄となるといろいろな活動に支障が出てくるのが予想されます。

ですから、来年度の推進員の選出の際は、現推進員のみなさまにはできるだけ多く残っていただければ幸いです。その際はどうぞよろしくお願いいたします。

教育予算は減らさないでほしい

2020年に全世界を襲った新型コロナウイルス封じ込めに、「アベノマスク」と揶揄された日本の対応とは反対に、初動の際、世界でいち早く成功したとされているのが台湾です。その政策推進の中心人物が当時のデジタル担当政務委員のオードリー・タンです。彼女はその著書『私はこう思考する』の中で、教育についてこう語っています。

教育の改革は、あらゆる改革の支えになるものだと思います。格差を解決するアプローチとしても、チャレンジする機会を拡大するものとしても、教育が大切なのは言うまでもありません。

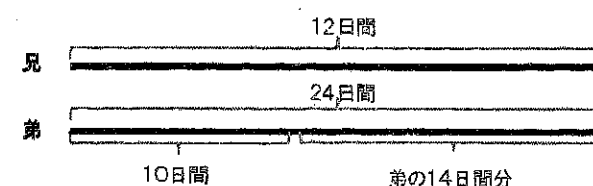
今、酒田だけじゃなく日本全体も、教育を軽んじているように思えます。そのツケは必ず将来はね返ってきます。それは青少年に対するものも同じだと思うのです。

カンガエル算数

先月のお題(有名中学入試問題より)

ある仕事をするのに、兄は12日、弟は24日かかります。この仕事を2人で始めましたが、途中で兄が休んだため、全部で10日かかりました。兄は何日休みましたか。

下の棒を「やる仕事量」とすると、



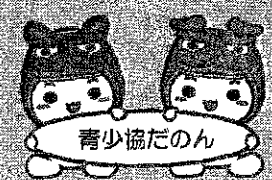
10日かかっているの、残った仕事は弟の仕事の進め方だと14日分あるわけですね。兄は弟の2倍の速さで仕事をこなすわけですから、 $14 \div 2 = 7$ で、7日間で仕事を終えたことになります。ですから、兄は3日間休んだということになるわけです。

では、今月の問題をどうぞお楽しみください。

今月のお題(有名中学入試問題より)

4年前、姉と妹の年齢の和の3倍が母の年齢と同じでした。現在、姉と妹の年齢の和の2倍が母の年齢と同じです。現在、母は何歳ですか。





いくせい通信
Smile up!
～地域活動を創るには～

2025.08.25
No. 5
酒田市青少年指導センター
酒田市中央西町2-59
TEL 0234-24-2901

“地域活動”っていいね！

8月1日(金)の定例会には20名もの推進員の方々にご参加いただき、本当にありがとうございました。その時も報告があったように、7月中に田沢、亀ヶ崎、東平田、上田地区で、青少年育成活動がありました。

先日行われたモルックなどの研修会も、定例会の話し合い

や情報交換も、地域活動の一助となればとの思いで開催されています。

コロナ禍もあり、なかなかこういう活動ができないでいたわけですが、ようやく各地域で、少しずつではありますが開催されるようになってきました。たいへん嬉しいことですね。



上と左の写真は、7/21に行われた田沢地区の『ぜったいもっしえじかん』

田沢地区『ぜったいもっしえじかん』

数年前に田沢小学校が閉校になり、地区のみなさんはさみしい思いをしていらっしゃるのかと思います。きや、たくさんの方がこの「ぜったいもっしえじかん」に集っていました。

中学生がボランティアとして協力する姿も見られ、ゲストの“ナマリー・ポートマンさん”といっ

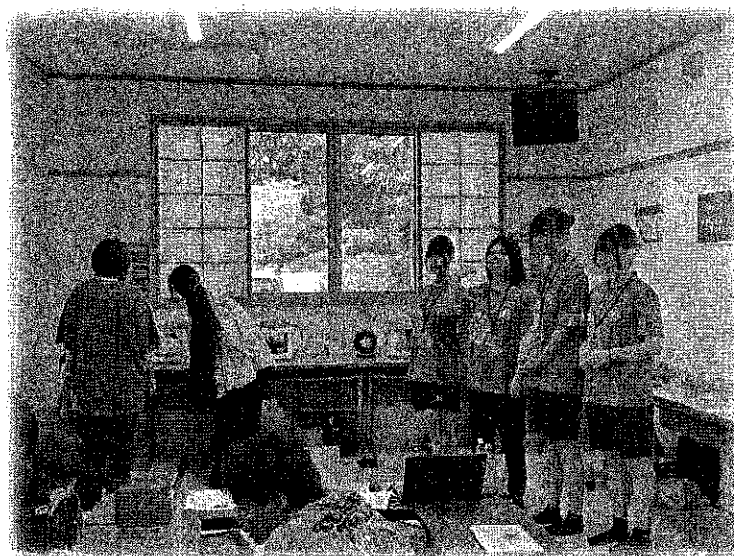


7/26に行われた港南・亀ヶ崎地区の『おもしろ広場』

しよに楽しくダンスを披露していました。また、防災用テントの設置実演でも、今回の実行委員長丸山さん(田沢地区推進員)に協力して体験する姿が素晴らしかったと思います。

地域の方手作りの焼きそばとスパゲティの昼食を食べた後は、近くの川でザッコつかみをするなど、川遊びで盛り上がったようです。

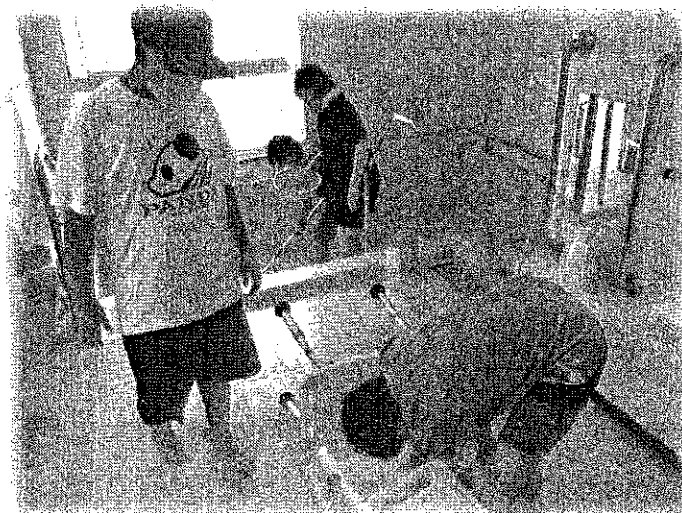
港南・亀ヶ崎地区『おもしろ広場』



コロナで中断していたこの企画は、再開して2回目。輪投げコーナーにジュース釣り、紙ひこうき飛ばしや水消火器体験など、さまざまな遊び等が準備されていました。その中でも、三中生が山大理学部の子から指導を受けながら「3Dプリンター」の説明をしたり体験コーナーを受け持ったりしていました。根付になるようなマスコットを作っていた子どもやハンコを作った人など、初めての体験にみなさん目を輝かせながら取り組んでいました。

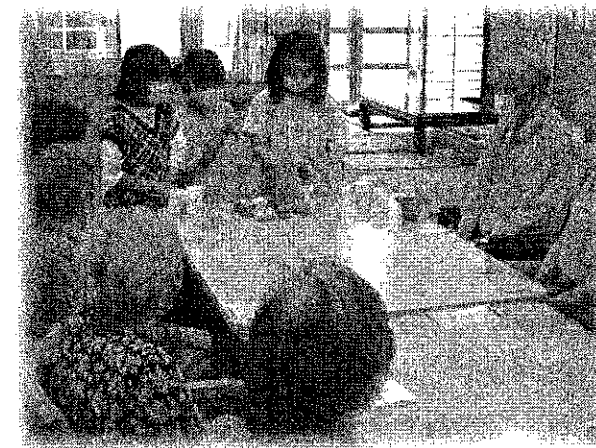
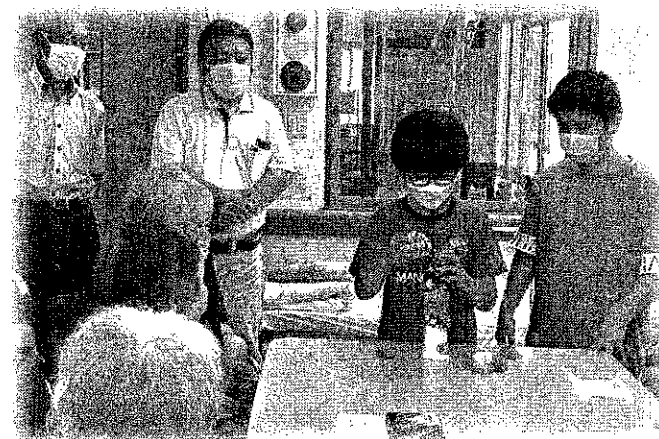
「おもしろ広場」は港南・亀ヶ崎の両コミセンが推進母体となっていて、**港南地区の和嶋推進員、亀ヶ崎地区の梅木推進員**も大活躍していました。

東平田地区『施設ボランティア体験～小学生～』



地域活動の大切さはわかっているけど、なかなか推進員だけの力では実践できないものです。多くの推進員がそのジレンマに悩まされているようです。地域に「青少年育成部」のような組織があれば、いろいろ相談しながら物事を進めていけるとは思うけど、「一人」だと本当に動きが取りにくいと思います。

そんな中、**東平田地区推進員の前田さん**が、自ら企画し、案内状を作って、



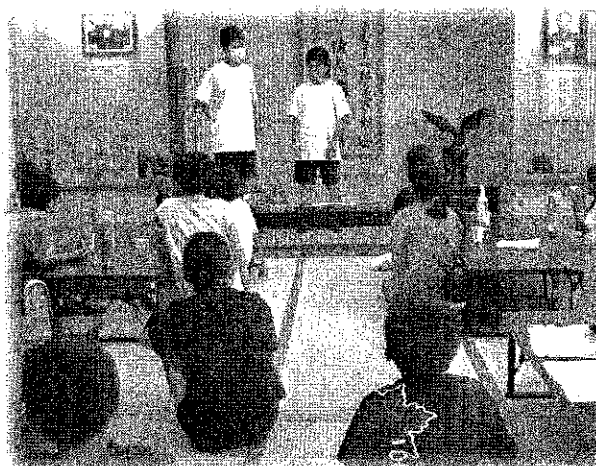
地域に回し、小中学生の参加者募集にこぎつけました。

当日は、いろいろな都合で中学生が参加できなくなり、小学校3～5年生の6名が集まってくれました。ところが、肝心の前田さんも急用で出られなくなり、急きょ**前の推進員の渋谷さん**や専門指導員の田澤・渡部(賢)が手伝うことになりました。

子どもたちは、地域の老人福祉施設のみなさんと紙コップけん玉を作ったりそれで遊んだり、また施設のお風呂掃除や窓ふきを手伝ったりしてくれました。

なかなかハードルは高いかもしれませんが、一度こういう地域活動をやればその後も継続して実施することが可能になると思います。そして、前田さんのような思いがあれば、**OBも含めた推進員のみなさんやセンターの指導員が地域活動づくりに喜んで協力します。**

上田地区『通学合宿～中学生企画～』



2日間にわたる小学生の通学合宿は、上田コミセンが主催して行っていますが、地元の中学生在が企画立案するコーナーも取り入れました。その中で**上田地区推進員の池田さん**もお手伝いしていますが、大人は口や手を出さないのが基本のようです。つまり、子どもに考えさせ、悩むのも改善しながら実行していくのも子どもという、まさに「**主体的活動づくり**」を推進しているようです。見栄えや上手くいくようにと、ついつい大人は(それこそ余計な)口出しをしてしまいがちですが、これからの青少年育成活動のお手本となるような素晴らしい活動だったと思いました。